

第5回 北九州市地域福祉計画策定懇話会 議事要旨	
日時・場所	平成23年2月2日(水)13:30~ ホテルクラウンパレス小倉 2階 香梅
発言者	内 容
	<p>【1 開会】</p> <p>【2 議題】</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>(1)パブリックコメントの実施結果 (2)「北九州市の地域福祉(2011~2020)」(素案)の変更点 (資料1・2・4について説明)</p> </div>
委員	民生委員法第10条に「民生委員には給与を支給しない」とあるのは全国的に同じなのか。
地域支援部長	全国的に同じである。
委員	資料2の31の『「高齢者」「障害者」は皆何らかの課題を抱えているという前提に立った考え方をしていると誤解される』という説明があったがどういう意味か。また、障害の「害」という字は漢字ではなく、ひらがな表記にするという考え方が全国的にあると聞いた。北九州市はどういうふうに考えているのか。
障害福祉課長	全国的には約15県市でひらがなの「がい」という表記で公文書を出している。国においては制度の見直しの中で議論が行われており、現時点では「害」のままであるが今後の検討課題とするとしている。 「害」の字については、単に「害」の文字をひらがなに変えるという表記のみを問題とするのではなく、障害のある方の人権の問題も踏まえて考える必要があるため、本市も今後の検討課題として考えていきたい。
計画調整担当課長	31の「高齢者や障害者であってもその能力を活かして」という表現について、「 」であっても」と表現した場合、「 」に入る人がそもそも何らかの問題を持っているという前提に立っているとの誤解を招きかねないと考え、個別の事象を指す「加齢などによる心身機能の低下や」という表現にした。
委員	最終案の内容は素晴らしい。これを市民にどのように周知するかということが非常に大事だと思う。昨年市政だよりで民生委員の特集をしていただいたが、読んだ方々から大きな反響があった。この計画も市民に、特に高齢者の方々にどういうふうに周知していくかが大切である。
委員	3点ある。1点目は資料2の37に「民生委員の欠員の解消や負担の軽減に向け、有識者や関係団体による研究会を開催しています」とあるが、研究会というのはどういうものなのか。2点目は資料2の49の意見について、資料4の57ページの図表の中に『多様な主体が対等な立場で協働・連携することによる「新しい公共」』ということで、「対等な」という言葉を入れているが、本文の中にも「対等な」という言葉を入れるべきではないか。3点目は、資料2の52の意見について、これまで様々な委員会に関わったが、審議を十分にしないまま委員会が終わってしまうことが多い。そうならないように、推進懇話会の開催頻度など何らかのものがここに明記されるといいと思う。特に今回の計画は行政だけがやるものではない、官民ともにやるということであるならば、なおさら明記すべきではないか。

<p>いのちをつなぐネットワーク推進課長</p>	<p>1点目の研究会について。昨年の民生委員の改選時に27名の欠員が生じたことを受けて、関係団体、有識者、民生委員、自治会、社会福祉協議会、学識経験者の方々とともに民生委員の負担軽減や欠員の解消に向けた研究会を開催している。昨年12月に第1回を開催しており、平成23年度いっぱいをかけて検討していきたいと考えている。</p>
<p>計画調整担当課長</p>	<p>2点目については、資料4の本文57ページを「それぞれの得意分野や専門性を活かしながら、対等な立場で相互に連携・協働を強めていく」と変更する。</p> <p>3点目の懇話会については、本計画は計画期間が10年と長いため、委員の改選をどのタイミングで行うかという問題がある。また、計画に基づいた具体的な事業の進捗状況や計画の中間見直し等についても議論が必要と考えられる。これらを考慮すれば現時点で開催頻度等を明記することが難しいと考えている。</p>
<p>委員</p>	<p>今後計画等に関する審議は十分に時間をかけてやっていただきたいとお願いしておく。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>(3)「北九州市の地域福祉(2011～2020)」(最終案)について (資料3・4について説明)</p> </div>
<p>委員</p>	<p>計画の周知・啓発のためリーフレットを作成して各家庭に配布すると書いてあるが、一方的に啓発をするのではなく、一緒に話し合ったり、一緒に考えたりするような場の設定が大切であり、それを本文に入れたほうがよい。</p> <p>また、自ら解決が難しい問題があれば周囲に支援を求めることも「自助」の一つと書いてあり、これは評価している。ただこのことが一般的には広まっていない。自分から自ら助けてほしいと言えない人が多く、それが孤独死に繋がっている現状を考えると、そうじゃないんだということをもっと強調し、そしてそれを受け止める「共助」「公助」の環境整備が大事だと思う。</p> <p>さらに、資料2の27だが、この意見で重要なのは「必要な支援を地域の人が話し合って決めることが大切である」という部分である。地域の中で話し合い、考えて、必要な支援を決めていくということを地域でやっていく中で、地域の支援する力が高まると思うので、それを明記すべきではないか。</p>
<p>委員</p>	<p>今後はいろんな人達で新たな連携やネットワークを作っていくないと、地域社会は支えられないという実感を持っている。この計画は市民にとっては大きなお世話というところだと思うが、それでも勇気を持って行政が作り上げたということは、今の時点で非常に重要で必要なことだと思っている。</p> <p>しかし、いざ実際に地域で何かをすることは大変難しい。一人ひとりに対してとか個別にというのは行政の苦手なところだが、地域の一人ひとりに何らかの変化ができるように、市民にわかりやすい表現方法を考えていかなければならない。ただ、市民に理解してもらうのは非常に難しい。その中で一つ言えるのは、市民の皆さんが主体的に参加できる場の設定をする、それに行政が規制をかけずできる限りバックアップするということが大事だと思う。</p>

<p>計画調整担当課長</p>	<p>市民自身がどういったことをすべきか、課題を共有し話し合う場が大切だということを書き加えたい。また、地域でいろんな問題を話し合っ て決めることが重要であるということについても追記する。</p> <p>「自助」については、「自らが声を上げなければ、必要なサービスにつ ながらないということにもなりかねません。大切なのは一人で問題を抱 え込まないようにすること」と書いているが、この文章を充実させるよ う検討したい。</p> <p>リーフレットを各戸配布することになっているが、市民とこの計画をど のように共有して、またどう実現していくかというところが実は一番難 しい点だと我々も認識している。単にこの計画を要約したようなリーフ レットでは心に響かないことから、共感を持って見て頂けるように工夫 していきたいと考えている。</p>
<p>保健福祉局長</p>	<p>これまでは、地域の住民や自治会といった集団の単位に支援をするこ とを想定してきたが、一人ひとりに対する個別の支援をどうやって行っ ていくのかということを検討しなければならないところまできているの が現状である。本市はこれまでも自治会や民生委員の方々、医師会など 地域の団体と協力しながら高齢者や障害者の支援をしていこうという取 組みからスタートしていたが、それを一歩進めたのがいのちをつなぐネ ットワークであり、これによって一人ひとりのいのちを支えるような仕 組みを作っていこうとしているのが現状である。その意味では、いち早 く一人ひとりへの支援の問題に対する取組みを始めたと考えている。</p> <p>今後は地域福祉計画をベースとして、高齢者や障害者などへの個別の 支援は、分野別の計画の中で具体的に決めていくという考えを持っている。 行政と住民との関わり方を含めて、一人ひとりへの支援の輪をどの ように広げていくのかという非常に難しい課題をいただいたが、その点 を引き続き考えながらこの計画を進めていきたいと思う。今後の計画の フォローアップにおいても、検討課題としていきたい。</p>
<p>委員</p>	<p>地域で話す、話し合うということが非常に大事だと思う。本市では市 民センターを拠点とした健康づくりが大々的に行われており、地域で定 期的に健康づくりをテーマとした話し合いが実際に行われている。これ が地域の話し合いの場として、地域福祉計画を推進するきっかけになる のではないかと。</p> <p>【 3 閉会】</p>